

>>> 図書探訪「いわきの文学者 -短歌・俳句編-」>>>

天田 愚庵 あまだ・ぐあん 嘉永7（1854）年7月20日～明治37（1904）年1月17日

天田愚庵は、平藩主安藤家の家中・甘田平太夫の五男として生まれました。漢詩人・歌人・書家。幼名は甘田久五郎、後（明治4年）に五郎と改めました。戊辰の役で父母妹が行方不明となり、所在をたずねて全国を遍歴すること20年、その間に山岡鉄舟の知遇を得ました。一時期（明治14年から17年まで）、清水次郎長（山本長五郎）の養子になり（山本五郎に改姓、時に山本鉄眉と号す）、明治20年、滴水（てきすい）禅師によって仏門に入り鉄眼（てつげん）と号し、明治25年に京都の清水に庵を結んで愚庵と名のりました。漢詩の他に万葉歌人としてすぐれ、正岡子規に多くの影響をあたえました。愚庵の旧居は、昭和41年、いわき市平の松ヶ岡公園に移築復元されています。

主な著作に「^{ほいんこうせん}戊寅口占」（明治11年）、『東海遊俠伝 全 一名次郎長物語』（明治17年）、『順礼日記』（明治27年）、「愚庵十二勝唱和」（明治28年以後）、『愚庵遺稿』（明治37年7月）、『愚庵全集』（昭和3年）、『愚庵全集（増補改訂）』（昭和9年）などがあります。

大須賀 乙字 おおすが・おつじ 明治14（1881）年7月29日～大正9（1920）年1月20日

大須賀乙字は、本名を大須賀績（おおすがいさお）といいます。父・漢詩人の筠軒（いんけん）、母・ウメの二男として生まれました。俳人・俳論家。父の退・転職に伴い、現いわき市平で育ち、安積中から仙台一中に転校、乙字と号して俳句を始めました。仙台第二高等学校を経て東京帝国大学文科大学国文科に入学し、河東碧梧桐（かわひがしへきごとう）門に入ります。明治41年、雑誌「アカネ」創刊号に新傾向俳句流行のきっかけとなる俳論「俳句界の新傾向」を発表しました。季語を初めて用い、二句一章論を唱え、俳論家として認められましたが、妥協を許さない性格から次第に師の碧梧桐等と意見が対立し、俳壇で孤立を深めていきます。大正9年、スペイン風邪にかかり死去しました。

主な著作に『乙字句集』（大正10年）、『乙字俳論集』（大正10年）、『乙字書簡集』（大正11年）、『自選乙字俳論集』（大正14年）、『乙字俳句集』（昭和8年）、『俳句作法 附 乙字句抄』（昭和9年）があります。

高久 晚霞 たかく・ばんか 明治14（1881）年9月10日～昭和27（1952）年8月13日

高久晚霞は、福島県会津坂下町に生まれました。本名は、高久忠（たかくただし）。歌人・医師。京都帝国大学医学部（現京都大学）を卒業後、同大学病院内科勤務、国立福島病院副院長を経て、大正元年、平町（現いわき市平）に開業します。文学・音楽を愛し短歌に秀で、格調ある作風を持ち、いわき地方短歌界の良き指導者で、昭和3年の磐城文芸協会の設立の際には会長を務めました。文芸雑誌「詩南車」の短歌の選者で、別宅「木兎荘（すくそう）」にて短歌の会を開き、地元歌人の他に巖谷小波（いわやさざなみ）・土井晩翠（どいばんすい）など中央歌人も多く訪れる歌人のサロンのような場を設けました。

主な著作に、『詩南社代表歌人自選集 歌集 はまゆふ』（昭和8年）、歌友の高萩尊風氏との二人歌集『短歌 佐波古集』（昭和18年）があります。

渡辺 何鳴 わたなべ・かめい 明治 32(1899) 年 10 月 13 日～昭和 51(1976) 年 2 月 19 日

渡辺何鳴の本名は、渡辺久(わたなべひさし)、旧姓は赤津、別筆名は山村楓花(やまむらふうか)。俳人・医師。磐城中学校(現磐城高等学校)出身で、大正 13 年に東京慈恵医学専門学校(現東京慈恵医大)を卒業し、聖路加病院勤務を経て、昭和 4 年、平町(現いわき市平)八幡小路に渡辺医院を開業しました。この頃から平周辺の句会に参加するようになり、地元俳句結社の指導者として、いわき地方俳句界の振興に尽力しました。昭和 9 年から昭和 37 年まで、「馬酔木(あしび)」に投句し、水原秋櫻子(みずはらしゅうおうし)選で掲載されています。昭和 39 年には俳誌「雪解(ゆきげ)」の同人となります。昭和 33 年、平市から教育文化功労賞を受け、昭和 49 年秋には勲五等瑞宝章を受章しています。

主な著作に、浜通り俳人の合同句集『浜通り』(昭和 34 年)、『いわきの俳人 渡辺何鳴俳句集』(平成 17 年)があります。

草野 比佐男 くさの・ひさお 昭和 2(1927) 年 7 月 1 日～平成 17(2005) 年 9 月 22 日

草野比佐男は、福島県石城郡永戸村(現いわき市三和町)に生まれました。歌人・詩人・作家。昭和 20 年に旧制相馬農蚕学校を卒業後、ふるさとの三和村で農林業に従事しながら、批判精神のほとばしりを短歌表現に求めました。その後は小説・詩・評論などにも活躍の場を広げます。昭和 37 年に歌集『就眠儀式』で第 6 回農民文学賞と福島県文学賞、小説「新種」で第 10 回地上文学賞を受賞。また、昭和 43 年には小説「懲りない男」で福島県文学賞、昭和 50 年には小説「ママのためのじゃんぼん」(『6 号線』創刊号に発表)で第 1 回三猿文庫賞をそれぞれ受賞しています。その他、平成 26 年度で閉校となった三阪小学校の校歌を作詞しました。

主な歌集に『序章』(昭和 24 年)、『現代襍俣派』(昭和 32 年)、『就眠儀式』(昭和 36 年)、『老いて蹠踉』(平成 13 年)、『この蟹や何処の蟹』(平成 15 年)、詩集に『造林詩集』(昭和 37 年)、『村の女は眠れない』(昭和 47・49・平成 16 年)、『老年詩片』(昭和 61 年)、『玉川村金成』(平成 18 年)、小説に『権木覚書』(昭和 47 年)、『片頬の陽焼け』(昭和 57 年)、エッセイに『阿武隈山地にて』(昭和 56 年)、『雲に鳥 村に老いる』(昭和 61 年)、絵本に『石になったおかあさん』(昭和 55 年)、その他に『わが攘夷 むらからの異説』(昭和 51 年)、『東北農村の詩』(昭和 53 年)、『沈黙の国生み』(昭和 57 年)、『村で古川柳を読む』(平成元年)、『詩人の故郷』(平成 3 年)、「くらしの花実」(日本農業新聞・平成 8～17 年)などがあります。

◇◇◇◇◇ 展 示 資 料 ◇◇◇◇◇

掲載例：『書名』または「雑誌等名」 著者等名 出版社名 発行年月 (図書請求記号)

天田 愚庵

- ◆『東海遊侠伝 全 一名次郎長物語(初版本)』山本鉄眉(天田愚庵)興論社 明治 17 年 4 月
- ◆『順礼日記(初版本)』天田鉄眼(天田愚庵) 非売品 明治 27 年 5 月
- ◆『新選秀歌百首』斎藤茂吉 白玉書房 昭和 24 年 3 月(K 愚庵/911.1/サ)
- ◆『愚庵遺稿 戊寅口占』柳内守一 愚庵研究会 平成 9 年 3 月(K 愚庵/911.0/ア)
- ◆「大須賀 筠軒 宛手紙」天田愚庵 自筆原稿 明治 26 年春

大須賀 乙字

- ◆『乙字句集』 大須賀乙字 懸葵発行所 大正 10 年 5 月
- ◆『乙字俳句集』 大須賀乙字 紫苑社 昭和 8 年 7 月 (K/911.3/才才)
- ◆『乙字俳論集』 大須賀乙字 乙字遺稿刊行会 大正 10 年 11 月 (改訂版 K/911.3/才才)
- ◆『自選 乙字俳論集』 大須賀乙字 紫苑社 大正 14 年 5 月 (K/911.3/才才)
- ◆『俳句作法 附 乙字句抄』 大須賀乙字 東炎発行所 昭和 9 年 2 月 (K/911.3/才才)
- ◆『乙字書簡集』 大須賀乙字 懸葵発行所 大正 11 年 7 月

高久 晚霞

- ◆「詩南車」第 19 輯 片寄耿二編 詩南社 昭和 3 年 11 月 短歌「菊盛」「雑詠」掲載
- ◆「詩南車」第 20 輯 片寄耿二編 詩南社 昭和 4 年 4 月 短歌「田家の朝」「雪」掲載
- ◆「詩南車」第 21 輯 片寄耿二編 詩南社 昭和 4 年 10 月 短歌「睡蓮」選歌「雲山」掲載
- ◆「詩南車」第 22 輯 片寄耿二編 詩南社 昭和 5 年 1 月 短歌「海辺巖」「叔父」掲載
- ◆「詩南車」第 23 輯 片寄耿二編 詩南社 昭和 5 年 6 月 短歌「暖き海」掲載
- ◆「詩南車」第 24 輯 片寄耿二編 詩南社 昭和 6 年 1 月 短歌「豊間の海」掲載
- ◆「詩南車」短歌特輯号 第 25 輯 佐藤正美編 詩南社 昭和 6 年 6 月 短歌「ふくろう」掲載
- ◆「詩南車」第 26 輯 佐藤正美編 詩南社 昭和 7 年 5 月 短歌「猛火」掲載
- ◆「詩南車」第 27 輯 宮田誠吉編 詩南社 昭和 7 年 7 月 短歌「鶺鴒」掲載
- ◆「詩南車」第 30 輯終刊号 片寄耿二編 詩南社 昭和 8 年 4 月 短歌「地震」掲載
- ◆『詩南社代表歌人自選集 歌集 はまゆゑ』 詩南社 昭和 8 年 7 月
- ◆「文芸誌 一九三〇」第 1 巻第 1 輯 相場虔一郎編 一九三〇年社 昭和 5 年 1 月 短歌「写真」掲載
- ◆「潮声会」9 月俳句輯 昭和 6 年 9 月
- ◆「真道」創刊号 中村清次編 真道社 昭和 9 年 3 月 短歌「温泉場の灯」掲載
- ◆「磐城野」新年号 第 2 巻第 1 号 戸部曙歌編 磐城野社 昭和 11 年 1 月 短歌「舊師」掲載
- ◆「野麦」第 1 輯 野本孝雄編 柴田書店 昭和 12 年 5 月 短歌「から風」掲載
- ◆「野麦」第 2 輯 野本孝雄編 柴田書店 昭和 12 年 8 月 短歌「つばくろ」掲載
- ◆「野麦」第 3 輯 野本孝雄編 柴田書店 昭和 12 年 9 月 短歌「みどり児」掲載
- ◆『短歌 佐波古集 (枯條集・老づきて)』 高久晚霞・高萩尊風 非売品 昭和 18 年 9 月 (AL/911.1/夕力)

渡辺 何鳴

- ◆「詩南車」第 20 輯 片寄耿二編 詩南社 昭和 4 年 4 月 俳句「俳句」掲載
- ◆「詩南車」第 22 輯 片寄耿二編 詩南社 昭和 5 年 1 月 俳句「落葉集」掲載
- ◆「詩南車」第 27 輯 宮田誠吉編 詩南社 昭和 7 年 7 月 俳句「夏の霧」掲載
- ◆「詩南車」第 28 輯 片寄耿二編 詩南社 昭和 7 年 11 月 俳句「草の実集」掲載
- ◆「詩南車」第 29 輯 片寄耿二編 詩南社 昭和 7 年 12 月 俳句「句帳より」掲載
- ◆「詩南車」第 30 輯終刊号 片寄耿二編 詩南社 昭和 8 年 4 月 俳句「紫の句帖より」掲載
- ◆『懸賞募集 日本新名勝俳句 高浜虚子選』 大阪毎日新聞社・東京日日新聞社 昭和 6 年 4 月
- ◆「野麦」第 1 輯 野本孝雄編 柴田書店 昭和 12 年 5 月 俳句「花石斑魚」掲載
- ◆「野麦」第 2 輯 野本孝雄編 柴田書店 昭和 12 年 8 月 俳句「青嵐」掲載
- ◆「野麦」第 3 輯 野本孝雄編 柴田書店 昭和 12 年 9 月 俳句「山房口占」掲載
- ◆「野麦」第 4 輯 野本孝雄編 柴田書店 昭和 12 年 12 月 俳句「みちのくのたび」掲載
- ◆「好間思藻」1951 年 1 月号 前仏清編 好間思藻編集部 昭和 26 年 1 月 俳句「新春頌詠」掲載
- ◆「石城文化」創刊号 真尾悦子編 石城文化社 昭和 26 年 6 月 俳句「さつき野」掲載
- ◆『句集 浜通り』 浜三郡合同句集刊行会 非売品 昭和 34 年 3 月 (K/911.3/ハマ)
- ◆『いわきの俳人 渡辺何鳴俳句集』 渡辺郁子・小沼勇 平成 17 年 11 月 (K/911.3ワ)

草野 比佐男

- ◆『歌集 序章』 草野比佐男 北日本文化協会 昭和 24 年 4 月 (K/911.1/クサ)
- ◆『現代 襍俣 派 草野比佐男歌集』 草野比佐男 山光書房 昭和 32 年 5 月 (AL /911.1/クサ)
- ◆『歌集 就眠儀式』 草野比佐男 汎濫社 昭和 36 年 5 月
- ◆『老いて 蹠踉 草野比佐男歌集』 草野比佐男 同時代社 平成 13 年 2 月 (AL/911.1/クサ)
- ◆『草野比佐男歌集 この蟹や 何処の蟹』 草野比佐男 本の泉社 平成 15 年 12 月 (AL/911.1/クサ)
- ◆「翅」第 1 号 翅の会 昭和 37 年 2 月 短歌「Q氏の冬」掲載 (SK/911.5/ハ-1)
- ◆「翅」第 2 号 翅の会 昭和 37 年 4 月 短歌「森林疾走」掲載 (SK/911.5/ハ-2)
- ◆「翅」第 3 号 翅の会 昭和 37 年 9 月 短歌「Q氏の死」掲載 (SK/911.5/ハ-3)
- ◆「翅」第 4 号 翅の会 昭和 37 年 12 月 短歌「Q氏泥酔」掲載 (AL/911.5/ハ-4)
- ◆「翅」第 5 号 翅の会 昭和 38 年 3 月 短歌「大砲の唄」掲載 (AL/911.5/ハ-5)
- ◆「翅」第 6 号 翅の会 昭和 38 年 10 月 短歌「夏の落首」掲載 (AL/911.5/ハ-6)
- ◆『造林詩集』 草野比佐男 汎濫社 昭和 37 年 1 月 (AL/911.5/ク)
- ◆『草野比佐男詩集 村の女は眠れない』 草野比佐男 たいまつ社 昭和 47 年 5 月 (AL/911.5/ク)
- ◆『村の女は眠れない 草野比佐男詩集』 草野比佐男 光和堂 昭和 49 年 6 月 (AL/911.5/ク)
- ◆『定本 村の女は眠れない 草野比佐男詩集』 草野比佐男 梨の木舎 平成 16 年 4 月 (911.5/ク)
- ◆『老年詩片』 限定 5 部 第 1 号 草野比佐男 山太郎社 昭和 61 年 2 月 (SK/911.5/ク)
- ◆『阿武隈山地にて』 草野比佐男 はましん企画 昭和 56 年 7 月 (AL/914.6/ク)
- ◆『現代短歌大系 第 10 巻』 三一書房 昭和 48 年 10 月 「現代襍俣派」「就眠儀式」の抄録など

◇◇◇◇◇◇ 参 考 資 料 ◇◇◇◇◇◇

掲載例：『書名』 著者等名 出版社名 発行年月 (図書請求記号)

- ◆『ふくしまの文学展 浜通り編』 いわき市立草野心平記念文学館 平成 21 年 10 月 (AL/910.2/フク)
- ◆『いわき市史 第 6 巻』 市史編さん委員会 いわき市 昭和 53 年 11 月 (AL/210.1/1/イ)
- ◆『天田愚庵の世界』 中柴光泰・斎藤卓児 天田愚庵の世界刊行会 昭和 44 年 11 月 (AL/911.1/アマ)
- ◆『アルバム 愚庵とその周辺』 中柴光泰 はましん企画 昭和 57 年 7 月 (AL/911.1/ア)
- ◆『大須賀 筠軒』 大須賀筠軒詩碑建立会 昭和 62 年 8 月 (AL/289/オオ)
- ◆『大須賀乙字伝』 村山古郷 俳句研究社 昭和 40 年 9 月
- ◆『近代文学研究叢書 第 19 巻 (大須賀乙字)』 昭和女子大学 昭和 37 年 12 月 (910.2/オオ)
- ◆『昭和戦前のいわき 詩風土の開花』 いわき市立草野心平記念文学館 平成 14 年 10 月 (AL/911.5/シ)
- ◆『いわきの俳人 渡辺何鳴俳句集』 渡辺郁子・小沼勇 (K/911.3/ワ)
- ◆『真尾倍弘・悦子展 たった二人の工場から』 いわき市立草野心平記念文学館 平成 16 年 7 月 (AL/910.2/マシ)
- ◆『片頬の陽焼け』 草野比佐男 歴史春秋社 昭和 57 年 8 月 (AL/F/クサ)
- ◆『草野比佐男詩集 玉川村金成』 草野比佐男 鎌出版 平成 18 年 5 月 (AL/911.5/ク)

会 期：平成 27 (2015) 年 2 月 24 日 (火) ~ 5 月 24 日 (日)
会 場：いわき市立いわき総合図書館 5 階 企画展示コーナー